

味の素グループにとっての重要な事項 (マテリアリティ)

価値創造のフレームワーク

共創力を磨き、生活者視点をもって、Well-beingを実現し
事業活動を通じて共創された価値を還元していく

味の素グループにとっての重要な事項(マテリアリティ)は、味の素グループが長期にわたり持続的に社会価値と経済価値を共創し続けるための重要な事項です。重要な事項(マテリアリティ)は、経営や従業員の思いや考え、社外のステークホルダーからの様々な期待等が反映されるプロセスで策定しており、事業戦略に密接に関わっています。また、志(パーパス)、そして現場での取り組みとも深くつながっています。

価値創造のフレームワークが示すもの

価値創造のフレームワークでは、アミノサイエンス®の力や可能性 (Scientific Possibilities) と、人・社会・地球のWell-beingに貢献するストーリーの力 (Story of Well-being) を結び付けてこのサイクルを回すことで、サステナブルに成長していくという考え方を示しています。①共創力を磨き、②生活者視点をもって③Well-beingを実現し、事業活動を通じて④共創された価値を還元していきます。そしてこれらをつなぐ環は、インフィニティ (永遠) を象徴しており、①から④をつなげて回し続けることで、サステナブルに社会価値と経済価値を共創し続けるという意味を込めています。

価値共創 (ASV)

4

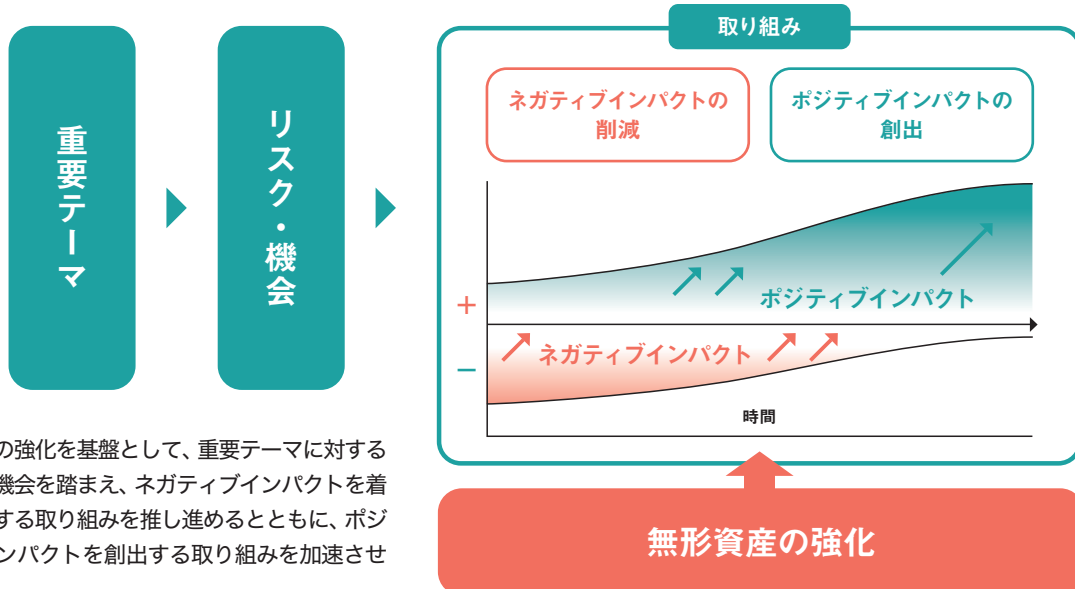
Scientific
Possibilities

科学による
新たな可能性

1

共創力

ネガティブインパクト削減とポジティブインパクトの創出



無形資産の強化を基盤として、重要テーマに対するリスクと機会を踏まえ、ネガティブインパクトを着実に削減する取り組みを推し進めるとともに、ポジティブインパクトを創出する取り組みを加速させます。



重要テーマ

持続可能な
地球環境の実現

食を通じた
ウェルビーイングの実現

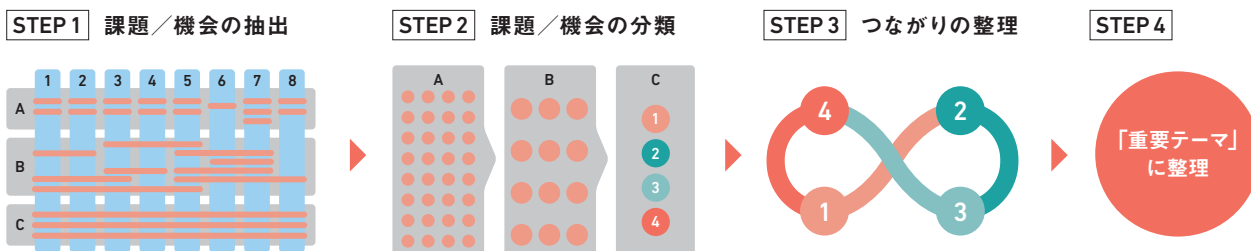
先端医療・
予防への貢献

スマートソサエティの
進化への貢献

多様な価値観・
人権の尊重

経営基盤の強化

策定のプロセス



業務執行側で考える2030年、その先の未来についてサステナビリティ諮問会議へインプットし、サステナビリティ諮問会議からのフィードバックのプロセスを経て、2050年を見据えた長期視点・マルチステークホルダー視点でマテリアリティを策定しました。

重要なステークホルダーを代表するサステナビリティ諮問会議

のメンバーが、それぞれの立場を代表して重要な課題/機会を抽出、変革とイノベーションを持続的に実現していくプロセスとして、課題/機会を抽出・分類し、整理しました。そして本年2024年に、味の素グループがマルチステークホルダーから期待されていること、社会に対して提供していく価値の視点から、現在の味の素グループが取り組む「重要テーマ」を6項目に整理しました。

味の素グループにとっての重要な事項（マテリアリティ）に関わるリスクと機会、各重要テーマに対して当社グループとしてどのように取り組むか、そのKPIは、「サステナビリティレポート2024」（2024年9月公開）で開示しています。
https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/activity/pdf/2024/SR2024jp_management.pdf#page=8